

国際オートメカニク科			2028年度 授業計画			
時 期	3年後期	単 元	一般	教科名	一般教養 3 D 1	
科 目	一般	教科書等 持参品		発行日	2026年4月1日	
総時限	38			教科 担当	坂口 正憲	
総時間	60.8				石井 隆幸	
単 位	4				外部講師	
1. 指導教員の実務経験 該当 非該当 日本語教育について十分な知見のある外部講師と連携して、自動車整備士としての実務経験のある教員が実施する。						
2. 教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入） すでにN2相当の日本語力を持つ学生が、日本の社会人（自動車整備士など）として現場に出るための「最後の総仕上げ」です。一般常識や実務知識を中心に据えた科目になります。						
3. 授業の到達目標（何を理解し何ができるようになるのか） 協調性と意見のすり合わせ： 多様な価値観を持つメンバーと協力し、一つのゴール（課題解決）に向かって議論を進めるチームワークを体得します。 問題の発見と原因分析： 職場や実習で起きる問題（例：作業効率が悪い、ミスが多い）に対し、「なぜ起きるのか」を論理的に分析する手法を学びます。 改善提案（カイゼン）の作成： トヨタの「カイゼン」に代表される、現場の無駄をなくすためのアイデアを日本語でまとめ、提案する力を養います。						
4. 学習評価（期末試験での主な試験項目） 平常点（30%）： 毎回の宿題（パワードリル・言葉を覚えようなど）の提出状況と達成度。 授業への参画度（20%）： ペアワークやクイズ、授業内の発言への積極性。 小テスト・模試（50%）： 随時実施する漢字・語彙クイズ、適宜実施する模擬試験の成績。						
5. 準備学習 予習（約30分）： 次回扱う『ベスト』の「言葉を覚えよう」の単語に目を通し、意味を確認しておくこと。 復習（約60分）： 授業で間違えた文法ポイント（ポ&プ）の例文をノートに書き写して音読する。指定された『パワードリル』の範囲を解き、次のフィードバックに備えること。						
6. 学修時間と単位 本科目は、1単位あたり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としている。 1単位の修得に必要な学修時間の目安は、15～30時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間である。						

国際オートメカニク科

2028年度 授業計画

時 期	3年後期	単元	一般	教科名	一般教養 3 D 1		
7. 授業概要（時限ごとの主な授業内容）					8. 教科書、資料、備品類		
時限	主な授業内容				資料、備品類	数量	
1	ガイダンス、なぜ職場でチームワークが必要なのか（整備は一人ではできない）						
2	チームの発展段階（フォーミング・ストーミング・ノーマー・パフォーミング）の理解						
3	グループワークの基本ルール：他人の意見を否定しない、全員が発言する環境づくり						
4	チーム内での役割分担：リーダー、タイムキーパー、書記、発表者のスキル						
5	効果的なブレインストーミング（アイデア出し）の方法と付箋の活用						
6	傾聴とアサーションのバランス：引っ込み思案なメンバーの本音を引き出す声かけ						
7	チームにおける「多様性（ダイバーシティ）」：異なる文化や意見を力に変える工夫						
8	合意形成（コンセンサス）の技術：多数決ではなく、話し合いで全員が納得する着地点を見つける						
9	職場でのコンフリクト・マネジメント（意見が衝突したときの建設的な解決法）						
10	問題解決のステップ①：あるべき姿（ゴール）と現状のギャップから「問題」を発見する						
11	問題解決のステップ②：問題を具体化・細分化する（「整備ミスが多い」を分解する）						
12	原因分析のツール①：なぜなぜ分析（「なぜ」を5回繰り返して真因にたどり着く）						
13	なぜなぜ分析の実践：実習場で「工具を紛失した」原因を徹底的に掘り下げる						
14	原因分析のツール②：フィッシュボーン図（特性要因図）を使った多角的な分析						
15	フィッシュボーン図の実践：「車検の作業時間が予定をオーバーする原因」の分析						
16	対策の立案：実現可能性（Feasibility）と効果（Effect）の2軸でアイデアを評価する						
17	【実践ワーク①】「整備工場の顧客満足度を20%上げるには」テーマのブレスト						
18	【実践ワーク②】付箋を使った意見のグルーピング（KJ法）と問題の構造化						
19	【実践ワーク③】真因の特定と、明日からできる具体的アクションプランの策定						
20	【中間チェック】与えられた課題に対する問題解決プランの提出と中間発表						
21	トヨタの「カイゼン（改善）」マインド①：現状維持は退歩であるという意識						
22	カイゼンの実践②：職場の「7つの無駄（作りすぎ、手持ち、運搬、加工、在庫、動作、不良）」						
23	整理整頓による時間短縮：工具を探す時間をゼロにする「見える化」のアイデア						
24	業務プロセスの標準化：誰がやっても同じ時間・品質で整備ができるマニュアル作成						
25	グループ対抗ワーク①：実習場の効率を上げるための「カイゼン提案書」の作成						
26	グループ対抗ワーク②：作成した改善提案のプレゼン準備（役割分担と練習）						
27	意思決定のフレームワーク：メリット・デメリット評価表の活用						
28	PDCAサイクルを回す：計画（P）だけで終わらず、実行（D）評価（C）改善（A）する						
29	タイムマネジメント：チーム全体のタスクと締め切りを管理するガントチャートの作り方						
30	チームのモチベーション管理：お互いの良い点を見つけて褒め合う（ポジティブフィードバック）						
31	心理的安全性（心理的安全性）：誰もが安心して質問・提案できるチームの作り方						
32	ファシリテーションの技術：会議をスムーズに進め、時間内に結論を出す司会のやり方						
33	リスクマネジメント：事前に予測されるトラブルとその対策をチームで共有する						
34	他部署との連携：フロント、部品課、営業とのチームワークを高めるコミュニケーション						
35	グループワークの振り返り（KPT法：Keep、Problem、Try）による自己成長						
36	【最終コンペ】「最強の整備工場を創る」総合問題解決グループ発表会（前編）						
37	【最終コンペ】「最強の整備工場を創る」総合問題解決グループ発表会（後編）						
38	総括：チームを引っ張り、現場の課題を解決できる「リーダーシップのある整備士」のまとめ						

※ 期末試験は授業時間に含まない